

KSKP

編集人 特定非営利活動法人ゆめ風基金事務局 (〒533-0033 大阪市東淀川区東中島1-13-43-106)  
 TEL 06-6324-7702・FAX 06-6321-5662・郵便振替 00980-7-40043  
 MAIL info@yumekazek.com・WEB https://yumekazek.com/

no.  
100

書 左右津安輝子



# ゆめごよみ100号

## 読者、原稿を寄せてくださった方 支えてくださった方々に心からの感謝を

理事 橘高千秋

私は、阪神淡路大震災直後に関西の障害者団体が結集して発足した障害者救援本部専従者としての2年間を経て、ゆめ風基金事務局員となつた。

阪神淡路大震災の救援活動にかかわる中で「これが経済大国と言われる日本の現実か?」と幾度も息を呑んだ。避難所で被災者が体調を崩し次々と亡くなる中、瓦礫に埋もれた市民が多数

### 被災障害者救援活動からの 情報発信がいのち

私は、阪神淡路大震災直後に関西の障害者団体が結集して発足した障害者救援本部専従者としての2年間を経て、ゆめ風基金事務局員となつた。

私は1997年から2018年までの21年間、事務局員として編集業務を担当させていただいた。会員の方に「これはぜひともお伝えしたい」、「この記事はどのように受け取ってくださるだろうか」と、ドキドキしながら編集し発送してきた。到着後に送つてくださる振り込み用紙の一言一言にどれほど胸を熱くしただろうか。閉め切り前の夜遅くの作業も苦ではなかつた。会員の方と心がつながっているという信頼が支えだつた。

### INDEX

- 01** ゆめごよみ100号読者、原稿を寄せてくださった方支えてくださった方々に心からの感謝を
- 03** 届けた救援金
- 04** 卓上コンロ4個と2台のバイク
- 05** 100号記念座談会 [前編]

- 07** 応援団からこんにちは! vol.3
- 08** リレー・エッセイ 災害と障害者 第七十三回
- 10** カンパをいただいたいた団体 / 事務局のうごき
- 11** 会計報告
- 12** 各地からの風だより

おられる時期に、「千載一遇の機会」  
とばかりに市の幹部たちによって再開  
発の検討が始まっていたことを知り、

人間の貌をもたぬ行政のありように恐  
怖をおぼえた。吹きさらしの体育館の

廊下で避難生活を送る障害者、高齢者。  
復興から取り残される人々。「これは  
人間の国か?」、被災者小田実さん（作  
家、故人）の言葉だ。

16年後に起きた東日本大震災にお  
いても、地震、津波、原発災害から  
辛くも助かった人々が、厳しい避  
難生活の中、体調を崩して亡くなる  
災害関連死は自殺を含め3789人  
(2022年3月31日現在、復興庁調べ)  
にのぼった。中でも福島県では、  
関連死2333人（同上）と、直接死  
1614人（2022年3月9日警  
察庁発表）を大きく上回った。そし  
て、発災時の障害者の死亡率が2倍  
だという調査結果も明らかになつた  
(2012年NHK調べ)。

市民の生命と人権を最優先に守れな  
いこの國のありよう震憾しながら  
も、少しでも救援活動現場に近い場所

から事実を伝えることがゆめごよみの  
仕事だと心する日々だった。

「早くお願いします」と。

## 「災害も戦争も障害者は 真っ先に犠牲になります」

ゆめごよみの連載企画「災害と障害

者」は20号（2002年10月26日發  
行）から始まった。第1回目の著者は  
ゆめ風基金発起人であり、著名な翻  
訳家、障害当事者の故二日市安さん。

「1945年7月9日夜の『災害』」と  
題して、17歳の時、米軍カーチス・ル  
メイ指揮の空襲で西宮の自宅一帯が全  
焼した体験を怜悧な筆致で書いてくだ  
さった。後段「ひとつの国土を焼き払  
ておきながら、その国土の代表者から  
勲章を受けられたのは、おそらく世界

の歴史上このルメイぐらいのものだろ  
う。わたしたちの家はこのルメイの指  
揮するボーイングB29の投下した焼夷  
弾によつてきれいに焼き払われた」の

文に改めて衝撃を受ける。

二日市さんは、阪神淡路大震災が起  
きた際、障害者救援本部リーフレット  
にいち早く文を寄せられている。「災  
害や戦争のときは、障害者は真っ先に  
犠牲になります。そのところ、よろ  
しくお願ひします」と。

## 「障害当時者と支援者が力を合わせて 友を救おう」杉本章さんの詩より

ゆめごよみ29号（2005年5月26  
日発行）に、呼びかけ人である杉本章

さんが発足10年を機に永六輔さんへの  
感謝をこめて書かれた詩が掲載され  
た。心に風を起こす詩を改めてご紹介  
したい。「人間にはまごころがある」  
に今も力をいただく。

讀　夢・風　　永六輔　大人

夢治心風育万象

輔車相依救朋友

六大雖人智不及

永傳世人俗有情

訳　夢は人の心をかよわせ、風は万物を育てる。（そ  
のように）障害当事者と支援者がお互いに力を合  
せて友を救おう。自然の力は人智の及ぶところでは  
ないが、（ゆめ風基金の運動によって）永く世の人々に  
人間にはまごころがあるということを伝えたい。

2

**ゆめ風基金のモットー**  
**被災した障害者に直接届ける**

これまでの救援金（救援活動費総額）  
**¥574,752,025** 2022年6月末現在  
 ただいまの基金残高  
**¥312,450,712** 2022年6月末現在

## お届けした救援金

2022	福島県沖地震 指定寄付 東日本大震災	¥733,300	¥100,000	¥225,000
2021	東日本大震災 2020年7月豪雨	¥4,650,800	¥2,802,000	
	2021年8月の前線に伴う大雨	¥3,000,000		
2020	台風19号 台風15号 東日本大震災	¥2,319,717	¥1,794,299	¥8,300,000
	2018年台風21号 2020年7月豪雨	¥5,000,000	¥2,886,175	
	新型コロナ 災害時移動送迎支援活動	¥320,000	¥100,000	
2019	大阪北部地震 西日本豪雨 北海道地震	¥5,618,928	¥514,745	¥1,069,637
	東日本大震災 台風19号 台風15号	¥1,300,000	¥4,643,605	¥1,590,648
	2019年8月の前線に伴う大雨	¥6,950,000		
2018	島根地震 西日本豪雨 大阪北部地震	¥50,000	¥44,649,350	¥9,640,008
	台風21号 熊本地震 北海道地震	¥38,988	¥7,300,000	¥1,807,608
	東日本大震災 災害時移動送迎支援活動	¥9,102,085	¥20,000	
2017	熊本地震 東日本大震災	¥48,233,587	¥7,500,000	
	災害時移動送迎支援活動	¥50,000		
2016	熊本地震 東日本大震災	¥48,233,587	¥141,210,000	
	災害時移動送迎支援活動	¥220,000		
2015	フィリピン台風 常総市水害被害	¥1,125,000	¥200,000	
	ネバール地震 東日本大震災	¥1,000,000	¥33,900,000	

2014	東日本大震災 災害時移動送迎支援活動	¥10,179,080	¥5,000,000	
2013	島根・山口大雨被害 東日本大震災	¥500,000	¥71,427,520	
2012	フィリピン台風 東日本大震災	¥968,125	¥72,636,489	
2011	台風12号 東日本大震災	¥2,942,828	¥114,899,050	
2010	ハイチ地震	¥1,000,000		
2009	台風9号 フィリピン台風	¥350,000	¥500,000	
2008	中国四川大地震 岩手県宮城内陸地震	¥240,000	¥300,000	
	ミヤンマーサイクロン	¥1,500,000		
2007	能登地震 新潟中越沖地震	¥500,000	¥1,955,000	
2006	パキスタン地震	¥250,000		
2005	新潟中越地震 福岡沖地震 宮崎台風	¥3,100,000	¥814,000	¥2,000,000
2004	イラン地震 新潟中越地震 台風23号	¥430,000	¥519,263	¥4,555,000
2003	東海集中豪雨 阪神淡路大震災	¥1,000,000	¥3,000,000	
	アフガニスタン地震 十勝沖地震	¥100,000	¥156,973	
2002	阪神淡路大震災 アフガニスタン地震	¥3,000,000	¥100,000	
	韓国台風	¥500,000		
2001	エルサルバドル地震 烏取地震	¥1,100,000	¥600,000	
	インド大地震 阪神淡路大震災	¥1,200,000	¥2,250,000	
2000	有珠山噴火 トルコ被災障害児の医療活動	¥1,450,000	¥500,000	
	東海集中豪雨	¥2,900,000		
1999	トルコ西部大地震 台湾大地震	¥1,100,000	¥2,000,000	
1998	北関東集中豪雨	¥500,000		
1995	阪神淡路大震災	¥1,000,000		

## 卓上コンロ4個と2台のバイク

呼びかけ人代表 小室等

27年前、滋賀県近江八幡に住む友人は取るものも取りあえず、朝の道を安否が気がかりな友人たちの住む神戸に急いだ。ライフラインの止まつた現地に着いて、彼は、火だ！と思つた。踵を返して近江八幡に取つて返し、卓上ガスコンロ4個とガスピンベを調達、リュックに入るだけ詰め込んで悪路を再び神戸に。「俺にできることは卓上コンロ4個分だった」と彼は自分の非力さを述懐した。けどコンロの火で暖かいものを食べることができた人たちが、どれだけ力づけられたことかと思う。

ゆめ風基金新代表理事、岐阜に住む戸田二郎さんも27年前のことを見前号No.99に書いている。テレビから流れる惨状に驚いていると、神戸の障害者の仲間たちから、救援活動の移動に50CCのバイクが必要のSOS。作業所職員の運転す

る車で戸田さんはバイク2台と救援物資を届け、すぐに岐阜へ戻り街頭募金を始めた。

卓上コンロ4個と2台のバイク、どちらも重さは同じだ。

必要なものを迅速に届ける、これつてゆめ風の理念そのもの。戸田さんは設立された「ゆめ風基金」にネット岐阜としてすぐには参加。

27年の時が経つた、今日も、事務局長の八幡隆司さんは被災地の現場に足を踏み入れている

でしよう。前代表理事牧口一二さんと戸田さん、時宜を得た交代。「牧さん、よくやつた！」と、

副代表だった亡き河野秀忠さんも天国から言っている。もちろん、牧さんは引き続き理事として、戸田さんを支えていただき仕事が残っていますので、お疲れの出ない程度にこれからもよろしくお願ひします。

全国のゆめ風ネットのみなさんと、ゆめ風事務局スタッフのみなさんと、そしてなによりもたくさんのみなさんからの寄付によって、ゆめ風基金は運営されています。

亡き永六輔さんから上意下達を感じで（笑）、呼びかけ人代表を申し送られましたが、永さんは10年の約束で呼びかけ人代表を退かれた後も、それまでと変わらぬ呼びかけ人振りであります。今度のロシア・ウクライナ侵攻での戦争被害者に、永さんだつたら国籍を問わず手を差し伸べようと言ひ出している

気がする。

呼びかけ人の皆さん、陰日向のサポート、力をいただいています。

太一さん、ありがとうございます。われわれ「ゆめ風基金」が持ちとすべきメッセージと受け止めました。

**スポーツで勝って、コンサートをひらく元気を「与えます」という人が多くてムカつきます」はどうして上から目線なのでしょうか。与えられたくないなんかないよ。自分で輝くよといつもや、下さる。**

**山田太一**



撮影：坂本ようこ

ていたので、改めてここに紹介させていただきます。

それにしても《ゆめごよみ風》だより》100号記念、凄いな。継続は力なりに乾杯!!



稻本さん



凪さん



# 100号記念座談会[前編]

八幡.. まず凪さんからお願ひします。  
凪.. 震災当時は学生で大阪にいました。実家が淡路島にあって、災害直後に連絡が取れて、あとで全壊と分かりました。震災支援を始めたのは震災の2月はじめ。救援本部\*に知り合いがかいでので。

八幡.. 稲本さんは、当時どうしていましたか？

稲本.. 大学卒業後も地震当日は研究生として宮崎にいて、午前中に大阪にいた友人から

地震のことを聞きました。私の祖母は須磨区に住んでいたので、テレビを見て、近所の市當住宅が燃えていたり、倒壊するのを見て、「ああこれあそこだ」と。どうしようかなと思って何日も過ごしましたね。

八幡.. なぜ神戸に来ることに？

八幡.. なぜ神戸に来ることに？

稻本.. 学生の時に、視覚障害者が普通に過ごせる公園の研究をしていました。その関係で、視覚障害の人たちと親しくなっていて、救援本部が全壊。震災の2月はじめ。救援本部\*に知り合いがかいでので。

八幡.. 牧口さんは当時どうしていましたか？

牧口.. 僕は大阪にいて、あの朝、書き終えて寝ようとした時は徹夜で原稿書いていた。朝、書き終えて寝ようとしたら、その時ぐらつときた。テレビをつけたら地震の報道ば

## ゆめ風基金の機関紙

「ゆめごよみ風だより」が100号を迎えました。今回、発足のきっかけとなった阪神淡路大震災当時のことを知る3人にお話を伺っていきます。

### 日時

2022年7月12日(火)

### 場所

#### 拓人こうべ

元は被災地障害者センター

### 参加者

#### 凪 裕之

淡路島出身。実家は全壊。震災当時は大学生で大阪住まい。1996年より被災地障害者センタースタッフ。現在、神戸市長田区にて車いすで自立生活中。

#### 稻本 須磨子

広島県出身。1995年4月から被災地障害者センター（後に「拓人こうべ」）でボランティア、その後スタッフとして活動。現在、介護事業所「たくと」職員として働く。

#### 牧口 一二

前ゆめ風基金代表理事

### 司会

#### 八幡 隆司

ゆめ風基金事務局長

かり。しばらくして「みんなどうしてる?」って思い始めで、大阪では救援本部を作ると動きがすでに起こっていて、僕何したらええかなと、いつも一緒に動いていた今は亡き河野秀忠に相談すると、3日前か4日経つて彼は神戸に行つたんです。着くなり電話をかけてきて、「えらいことになつていね。とにかく金集めよう」と。「どのくらい」「10億円」と。僕は今までに見たこともないお金やから、「5億くらいにせえへん?」と値切つてね。後で大笑いしましたね。

くり。また、有名な人が大阪に講演に来られた折に、河野と二人で樂屋を訪ねて、「ぜひお力を！」と頼んだら「いや」という感じで、わりに気軽に引き受けてくれたんですね。永六輔さんのすごいところは「もつといろんな人の名前が要るんだろ」と聞いてくれたんですね。ご本人から直接電話がかかってくるんです、ゆめ風に。「永さんか聞いた」と。永さんは単に名前を貸すだけじゃなくて、本気なんですね。それがものすごく力になりました。

た気がしたし、どこも運営が厳しい。「それらを繋げる事業をやってみないか」という話がありました。たまたま生乳パックのリサイクル活動をする全国集会を神戸でやるということがあり、「障害者の作業所も一緒にやらないか」と。作業所の側から「せっかくやから、バザーでもなく、お情けじやなく、商品として見てもうようなことをやる」となつて、それが品評会みたいな感じになつて、会場に来た人に作業所の商品を見て買ってもらう。かなり売れて、結果的に作業所の皆さんにも自信がついたんですね。

**牧口**：それが「セット商品」だったよね。

**嵐**：そうです。いろんな作業所の商品を一つ一千円くらいでセットにして販売するというふうことをやりました。その「セット商品」をやろうとなつたときに、ゆめ風基金やいろんなところから助けてもらつ

八幡：被災地ではどうやって財源確保をしていたんですか？

稻本：助成金を申請したり、Tシャツを売つたんです。キムタクがテレビドラマで着てくれて、ドッカーンと売れましたね。それから各作業所が独自のTシャツ作つて売り始めましたね。

八幡：寄付は集まりましたか？

稻本：すごく集まつていまし  
たよ。財政的には1／3が寄付、1／3がTシャツ、補助金1／3。

(後編に続く)

※正式名は兵庫県南部地震障害者救援本部。様々な障害者団体が結集して阪神間の障害者支援をするため1月21日に設立された。

(後編に続く)

**八幡**…寄付は集まりました  
か?  
**稻本**.. すごく集まつていまし  
たよ。財政的には1／3が寄  
付、1／3がTシャツ、補助  
金1／3。

※ 正式名は兵庫県南部地震障害者救援本部。様々な障害者団体が結集して阪神間の障害者支援をするため1月21日に設立された。

※正式名は兵庫県南部地震障害者救援本部。様々な障害者団体が結集して阪神間の障害者支援をするため1月21日に設立された。



三重県津市

NPO 法人ピアサポートみえ  
すぎた ひろし  
杉田 宏

ピアサポートみえは、三重県津市を拠点に、どんなに障害が重くても地域の学校でともに学び、ともに生きることをめざして、障害当事者が運営の主体となり、重度障害者の地域生活を支えるための重度訪問介護事業や相談支援事業、サンドウィッヂの製造や販売を行う就労継続支援B型支援事業の運営や学校等への講演活動等を行っています。

普段の何気ない日常生活の中でも、自宅に来るはずの介助者が来なかったり、定期点検で駅やアパートのエレベータが動かないといった事態に遭遇し、その度に不安に感じたり、動揺したりと私たち障害者的生活は、災害時のみならず、日常の生活が変化した時に、一番に影響を受けやすいと感じています。地震などの災害時には、避難行動一つとっても多くの課題があるように感じています。そのような中で、私たちは今年度、三重県社会福祉士会の方と一緒に逃げ遅れないための事務所のレイアウトを考えたり、秋ごろには避難訓練を実施することにしています。

「電子レンジと冷蔵庫が杉田さんの頭に当たるよ。物が倒れてきて、通路がなくなってしまうよ。ヘルメットはないの? 非常持ち出し袋はある? 地震ハザードマップで事務所はどう?」などといった会話のやり取りのなかで、自分自身の防災に対する意識も変化していることを感じています。仕方がないと諦めるのではなく、災害時にどのような状況に置かれても生きたい、命をつないでいくために、自分ができることは何だろうか、ピアサポートみえとしてやれることは何があるんだろうかと考えるようになりました。応援団への参加もその一環です。災害時という非常事態に遭遇しても、協力し合うことのできるネットワークがあること、平時からつながりを持てるここと、本当に心強いです。これからもよろしくお願いします。

# 応援団から こんなには! vol.3

募集することにしました。それが「ゆめ風応援団」です。  
災害時にはより小さな地域単位、「町」や「村」での情報収集が必要になってしまいます。

「ゆめ風応援団」のみなさんからの  
自己紹介をかねたメッセージを  
お届けするシリーズ第3弾!



千葉県市川市

認定 NPO 法人生活困窮・  
ホームレス自立支援ガンバの会  
理事長 副田 一朗

私たちはバブル崩壊の影響で増え続ける路上生活者の支援を行うため、1997年千葉県市川市で誕生した法人です。「孤立化」が進むこの日本社会の中で「孤立させない」を旗印に様々な事業を行い、昨今は居住支援に力を注ぎ、「住まい」の支援はもちろん、その後の生活支援、さらに看取り、納骨までも行っています。また支援対象者に障がい者も多く、自立訓練・生活介護、就労支援継続B型の作業所も運営しています。

そんな私たちが「ゆめ風基金」と出会ったのは、3年前に台風19号が千葉を直撃した折です。屋根を飛ばされる被害は甚大、大規模停電も長期に渡りました。そうした中、南房総市の認知症の方の入所施設、障害者のグループホームが「停電、断水で困っている。レトルトで急場を凌いでいるが、利用者の健康状態を考えると限界にきている」と支援要請があつたのです。

炊き出し器材は、従来の活動から所持しているものの、緊急でもあり課題は食材及び資金をどうするか、ということでした。

しかし、かつて東日本大震災の折に支援で連携を図った二つの生協から食材の提供を、「ゆめ風基金」からは資金の提供を受け、炊き出しを実現したのです。電気・ガスがない、水道も出ない中で、屋外で調理し、カレーや豚汁などを作り、施設の方々はもちろん、被災された近隣住民の方々に食事を提供、ひと時の交わりを得ることができました。

被災の中での支援、改めて大切なことは物の提供に留まらず、この社会の中で小さくされた人たちとの結びつきだと思います。「ゆめ風基金」の使命の一つは、ここにあるのではと信じています。ホームページもご覧ください。

## 障がい者の経験を 次の大災害に活かしたい



**山本 和美**  
やまもと かずみ  
 吉田町手をつなぐ育成会（愛媛県宇和島市）代表。障がいのある子どもを育てる親の集まり「吉田町手をつなぐ育成会」と集う場「オーブンスペースきやっち」代表。2011年（平成23年）から、フォトプロジェクト（写真を通して社会とともに生きる）を実施。2022年度のテーマは「つながる」。宇和島NPOセンター理事。

### 平成30年7月豪雨 7・7当時のこと

愛媛県宇和島市吉田町は美味しいみかんの産地です。県内で一番早い7月7日の吉田夏祭りが大雨のため中止と決ましたが、私は深刻には考えていました。

7月7日早朝、避難を促す地元消防団の声で目が覚める。身体・知的重複障がいのある長男は、車で40分ほどの施設に居た。自宅には夫と私、預かっている2歳の孫で、「避難所に小さな子を連れては行けない。」夫はそう返答した。

再び消防団が寄つてくれた時、外を見ると道路は川のようで、子どもを背負つては歩けないほどの濁流だった。避難しなかつたことを後悔する間にも、100年経つ古い家の土間に泥流が噴き込んだ。床高が50cmあって床下浸水ですんだが、数件向こうは、家の中で田植えができそうな塩梅だった。

吉田町では2271か所の斜面が崩れ、大規模な土砂災害が多数発生した。私の住む海沿いの地域

### 拠点の復旧と活動の継続

河川氾濫により床上浸水した活動拠点を、会員とボランティアで片付けたのは1週間後だった。ありがたいことに高圧洗浄機と水を携え、愛南町のNPOなんぐん市場の強力な助つ人2名が来てくださった。活動や事務備品の大半は廃棄した。罹災証明書のために写真を用意しても、任意団体が使えたり、障がいに特化した制度は見つけられなかつた。

泥々と土埃の中でも、2011年から始めたフォトプロジェクト（写真を通して社会とつながる）は行つた。テーマ「つながる」で作品募集し、被災地を巡る写真展を吉田町→大洲市→野村町で開催した。

### ゆめ風基金との出会い

そんな中「ゆめ風基金」の支援金情報はありがたかった。障がい者家庭の被災状況を手分けして確認、支援金の対象をリストアップした。行政は未曾有の災害対応に手一杯だったが、書類手続き等を福祉課

は、急傾斜のみかん山、僅かな平地に人家、すぐ海という地形だ。自宅から近くで大規模崩落した土砂は、下の農業用ため池を埋め尽くした。隣の集落では、崩落した土砂がみかんの樹も建物も海まで押し流し、人的被害が出ている。

### 目の前しか理解してない

土砂崩れでトンネルが崩落し、集落内の二つの小さな橋は落ちた。至るところで土砂が道路をふさぎ、地域は孤立した。からうじて路肩が崩れた道路を経由して、自衛隊や復旧のための機材・物資・人が入った。

ライフラインの吉田浄水場は土石流により壊滅的で断水は長期間続いた。7・7の夜は高湿度の暑さと真っ暗闇で自宅から逃げ出したかったが、翌日電気が復旧して生活は続けられた。TV・ネットなど情報手段は確保されたが、当時の私は歩いて行ける範囲しか理解してなかつた。何が起こって、何ができるのか、今はどう進んでいるか。SNSやネットの情報があつても、実感に理解が追いつかない。自分たちが被災者だという自覚すら無く、気持ちと行動が一致するには半年、1年と時間が必要だった。

が受け持つてくれた。

拠点の建物は解体が決まつた。「ゆめ風基金」救援金を団体としても申請し、移転先で重度身体障がいのメンバーが安心して活動できる屋内マットを整備した。

### 障がい者の経験を次の大災害に活かす

平成30年7月豪雨の支援活動を契機に「宇和島NPOセンター」が2019年に設立され、私も障がい分野から参加した。現在は災害支援・防災教育・産業振興を柱に、中間支援組織として地域のネットワーク構築とNPO団体の支援を進めている。

発災後、私は会員の安否確認に手間取つた。日頃の関係性もあるが、緊急時、親の会からの電話・メール対応は後回しになる。平時から簡単にやり取りできる仕組みに慣れておけば、支援物資や支援金情報も迅速に届けられる。また、私は小さな子を連れて避難所に行くのをためらつたが、障がい者にも同様な悩みはある。障がい者の経験と視点は、災害支援に活かせないだろうか。宇和島市のNPO団体で共にして、次なる大災害や地域の課題解決へのヒントが生まれればと願う。

**カンパをいただいた団体****2022/04-2022/06**

お店に募金箱を置いてくださったり、街頭募金やバザー、イベントで集めてくださったりしています。

本当にありがとうございます。もしも記載漏れがありましたら申し訳ありません

4/6	豊能障害者労働センター (箕面市)
4/8	地域たすけあいネットワーク (三条市) 大瀧合金 (川口市)
4/12	聖ベネディクト女子修道院 (室蘭市)
4/13	大杉の里 (上越市)、そうそうの杜 (大阪市)
4/18	自立生活センター松山 (松山市)
4/20	コーヒータイム (二本松市)
4/25	ゆうとおん (八尾市)、マインドこころ (岡山市)
4/26	農と地域のふれあいネットワーク (福井市)
4/27	奏海の杜 (登米市)
5/2	ひまわり (奈良県)
5/6	みみらくの里 (五島市)
5/9	錦保育園 (登米市)
5/10	ABC 研究所 (北九州市)

5/11	いこらー (岸和田市)
5/18	ルピナス会 (鹿児島県)
5/20	日本ダウン症協会 (豊島区)
5/25	世田谷交流会 (世田谷区)
5/27	浜松協働学舎を支える会 (浜松市)
5/30	田辺三菱製薬労働組合 (大阪市) 常在寺 (長崎県)
6/2	自立生活センター東大和 (東大和市) 幹福祉会 (東大和市)
6/3	麦の会 (仙台市)、ありのまま舎 (仙台市)
6/10	日本生活協同組合連合会、共同連れひめ (松山市)
6/9	あじさいの会 (豊中市)
6/13	YAH!DO みやざき (宮崎市)、玄家 (入間郡)
6/15	自立生活センターイルカ (宜野湾市)

**事務局のうごき**

2022年4月から6月の動きを一部ご紹介します。

毎週月曜日	事務局会議
4/5	サポート V 記念冊子打ち合わせ
4/7・5/11	災害時の連携を考える全国フォーラム打ち合わせ
4/13	BCP (事業継続計画) イベント打ち合わせ
4/18・5/23・6/15	おおさか災害ネットワーク (OSN) 世話役会議
4/27	通信 99 号編集会議
4/27・5/25・6/22	BCP 研究会
4/28	他団体 BCP 作成打合せ議
5/5	芸人九条の会参加
5/13	災害時の連携を考える全国フォーラム出演
5/17	ゆめ風基金理事会
5/18・6/10	OSN 要配慮者部会打ち合わせ
5/26	6/4 BCP イベントに向けたリーダー講習

5/27・6/2	ゆめ風基金 HP 修正打ち合わせ
6/2	豊中 AZ らんど講演
6/4	BCP イベント
6/13	中学生プロジェクト (柴島中学)
6/15	西淡路小学校講演
6/15・16	震災対策技術展参加
6/17	茨木市東雲中学講演
6/20	通信 100 号編集会議
6/21・22	通信発送
6/21	大阪府、府社協、OSN 三者連携会議
6/25	国際障害者年豊中講演
6/27	関西障害者定期刊行物協会総会参加
6/29	JVOAD (認定 NPO 法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク) との打ち合わせ
6/29	ポジティブ生活文化交流祭実行委員会

NPO 法人 ゆめ風基金  
**会計報告**

ただいまの基金額  
**312,450,712円**

貸付金の残高  
 これまでの救援金・救援活動費総額  
 総会員数  
**0円**  
**574,752,025円**  
**14,423人**

		前回報告残高	この3ヶ月の動き 4月から6月まで	今回報告残高 2022年6月現在
収支計算書	収入の部	会費収入	3,619,077	2,856,404
		寄付金収入	3,091,315	3,070,515
		臨時寄付金収入	440,172	1,860,860
		助成金収入	98,280	200,000
		事業収入	323,560	90,509
		雑収入	77,518	78,500
		貸付金返済収入	0	0
		保証金返済収入	0	0
		預り金収入	344,130	448,633
		未収入金収入	0	0
	支出の部	未払金収入	0	0
		合計	7,994,052	8,605,421
		救援金支出	325,000	733,300
		救援活動支出	0	0
貸借対照表	資産の部	貸付金支出	0	0
		基金拡大活動支出	77,183	103,480
		防災活動事業支出	226,040	30,660
		広報活動事業支出	472,946	367,827
		その他事業支出	264,960	264,960
		人件費支出	2,257,379	3,080,468
		その他事務費支出	1,525,533	1,771,817
		預り金支出	464,608	314,643
		未払金支出	286,720	0
		固定資産購入支出	0	0
	負債の部	保証金支出	0	0
		合計	5,900,369	6,667,155
		差引：収支差額	2,093,683	1,938,266
				4,031,949
	資産の部	基金特別会計預金	311,124,826	1,325,886
		一般会計現金預金	2,983,839	612,380
		[現金預金合計]	314,108,665	1,938,266
		障害者貸付金	0	0
		有形固定資産	926,162	0
		その他の資産	1,315,874	0
		合計	316,350,701	1,938,266
		未払金	0	0
		預り金	117,557	133,990
		その他の負債	117,557	133,990
	負債の部	合計	316,233,144	1,804,276
		差引：正味財産	313,732,263	2,500,881

脚注 1. 今回は4月から6月までの3ヶ月間の報告です。

2. 救援金は2件の支払いがありました。

3. その他は特に大きい変動はありません。

**災害別の救援金総額** 以前に他の災害でお届けした救援金はゆめ風WEBサイトとブログに掲載しています

**東日本大震災**

**344,779,224円**

**2016年熊本地震**

**55,598,387円**

**2018年西日本豪雨**

**45,164,095円**

**2022年福島県沖地震**

**733,300円**

## そよ風、つむじ風、六甲おひこ

名地からの風だより

2022.4 - 2022.6

▼ゆめ風は日本の良心です（福岡市）▼世界人類が平和でありますように、日本が平和でありますように（高槻市）▼自然災害は受け入れられますが、人の手による災害は歯がゆいですね（小松島市）▼なんだか腹の立つ事ばかりですが、元気にいきましょう（北海道共和町）▼いろいろな方からお世話になっています。自分も少しでも役に立てたらと思います（南松浦郡）▼世界の障害者の事が気になります（野洲市）▼ずっと「ゆめ風だより」を送つて下さりありがとうございます。No.98の数字に驚きと感謝です（北見市）▼牧口さんのご勇退と戸田さんのご就任をお祝いしての寄付です（八王子市）▼高次脳機能障害の子（50代）をもつ親として、会の持続を祈り、ささやかですが貧者の一灯を捧げます（横浜市）▼コロナに右往左往して、すっかり間があいてしまいました。皆様の継続力に感謝です（渋谷区）▼年寄の気持ちです。少しばかりですが、よろしく。平和を祈ります（横浜市）▼小さい力も誰かの助けになりますように！（越谷市）▼西日本豪雨では大変助かりました。活動の応援をしています（倉敷市）▼いつもありがとうございます。さまざまに戦、やめましょうと叫びたい!!（金沢市）▼少しですが安心して暮らせるように使って下さい（志野郡）▼牧口さんご苦労様。お若い時、美しい色の松葉杖を見せてもらつた時、

これや!と思つたことを思ひ出します（長岡市）▼多くの絆が感謝できるスタッフのお働きありがとうございます（千葉市）▼京都府南部震源の地震が続くので不安です（豊中市）▼「東北」へ（清瀬市）▼夫が亡くなり、わずかですが、子どもたちのために！応援しています（豊中市）▼コロナコロナで閉じこもった日々を過ごしていましたら、今度はウクライナが大変な状況になり先が見えなくなっています。どうぞ、明るい光が世界に差し込みます様、祈るのみです（寝屋川市）▼社会の正常化を祈りつつ、少しですが応援させていただきます（沼津市）▼暑い夏です!!みんなも元気でね（吹田市）▼最近スープーなどで品切れが目立ちます。食料も手に入らないかも（枚方市）▼後期高齢者になり不安な事もありますが、まだ元気で生活出来る喜びを感じています。増額出来ずみません（太田市）▼「無事之名馬也」です。息切れしないようにしぶとくやつていきましょう（福山市）▼ため息ばかりの世の中、笑顔は半分やけ（横浜市）▼今年は酷暑で大変です、どうぞスタッフの皆さんご自愛下さい（足立区）▼日々淡淡と和顔愛語で♡（日野市）▼いつまで送金出来るかわかりませんが送金します。大切にして下さい（春日井市）

ゆめ風ブログ (<https://yumeekazek.com/blog/>) にも掲載しています

## 編集後記

豪雨が続いているが、皆様、お住まいの地域は大丈夫でしたか？ ゆめ風にもいくつか情報は寄せられていますが現時点では支援には至っていません。被害の範囲が広く情報収集に苦労しています。ゆめ風応援団となって被災地の情報を寄せてくださる団体を募集しています。（ハ幡）

## ゆめ風ネットワーク連絡先 [faxは06-6321-5662迄]

さっぽろ 011-817-9080 秋田 018-846-3916 みやぎ 0220-44-4171 いわき 0246-68-8925 新潟 025-232-7522 三条 0256-34-2448  
 JDS(東京) 03-6907-1824 東大和 042-567-2622 立川 042-525-0879 横浜港北 045-431-4070 千葉 047-485-1245 埼玉 048-738-4593  
 上田 0268-39-4568 静岡 054-288-6068 きくがわ 0537-35-8303 愛知 052-841-9888 名古屋 052-745-1001 岐阜 058-388-1864  
 加賀 076-243-6786 富山 076-444-3753 福井 0776-52-6464 三重 059-202-5782 滋賀 077-543-2844 JCIL(京都) 075-671-8484  
 奈良 0745-42-2919 和歌山 0734-72-6731 伊丹 0727-79-1771 ひょうご 078-642-0142 はりま 0792-84-4668 淡路島 0799-70-6145  
 明石 078-913-5315 しまね 0854-83-2183 かがわ 0877-73-4177 愛媛 089-924-8533 まつやま 089-986-3245 今治 0898-54-4365  
 徳島 088-602-1003 岡山 0866-97-0206 ひろしま 082-294-4185 尾道 0848-38-9551 やまと 0833-76-0550 福岡 094-962-6003  
 大分 097-597-5315 宇佐 0978-32-3365 ながさき 0957-46-3858 謙早 0957-28-3800 さが 0952-74-4568 熊本 096-366-3329  
 みやざき 0985-31-4800 かごしま 0994-63-8855 沖縄 0988-90-4890